

## CDRの使い方

### イメージファイルの作成

CDRに焼き付けるためのイメージファイルを作成します。目的のファイル群を適当なディレクトリを作成し、その中にまとめておくと効率的です。下記の意味は/hogehogeディレクトリをcdimage.rawという名でイメージファイル化せよ、という意味です。

```
$ mkisofs -R -o cdimage.raw /hoge/hogehoge
```

正常にイメージファイルを作成できたかを確認するには、以下のmountコマンドを利用して見て下さい。/mnt/cdromディレクトリにイメージファイルの中身を読み込みます。

```
# mount -o loop cdimage.raw /mnt/cdrom
```

### イメージファイルを焼く

次に作成したイメージファイルを焼きます。cdrecordコマンドはroot権限で使用してください。cdrecordコマンドで最低限指定しなければならないオプションがspeedとdevです。speedはドライブの倍速を、devはデバイスの番号をそれぞれ指定します。

```
# cdrecord -v -eject speed=4 dev=0,0,0 cdimage.raw
```

その他のオプションを以下に上げます。

- version バージョン情報を表示して終了する。
- v 一般的な情報、書き込み処理の進捗状況等を表示する。
- V SCSIコマンド転送に関する表示度を1つ上げる
- eject 書き込み作業終了後にディスクをイジェクトする。
- dummy 記憶プロセスのすべての段階を処理するが、レーザーの出力は行わない。
- slient SCSIコマンドが失敗したときの状況報告をしない。
- force エラーが起こっても強制的に処理を継続させる。

speedは使用しているドライブの最適な倍速を指定するようにしてください。最適でない速度の場合、焼きミス等が発生する原因になります。デバイス番号は

```
# cdrecord -scanbus
```

で、調べることができます。